



< 20 - 19 >
2020年09月

先生各位

新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、弊社では先生方のご要望にお応えするため、下記検査項目について新規受託を開始することと致しましたので、ご案内申し上げます。

謹白

記

■新規受託項目:

抗リン脂質抗体(APL)パネル

[項目コード:4067]

■新規受託開始日:

2020年 10月 1日(木)受付分より

<ご案内>

- ・ 項目コードが新規登録となるため、電子カルテ・健診システム等をご利用の際は、お使いのメーカーのサポート窓口へ項目紐付けの依頼をご連絡ください。

以上

※裏面をご覧ください。

●抗リン脂質抗体(APL)パネル

抗リン脂質抗体症候群(APS)は、血中の抗リン脂質抗体(aPL)により多様な病態を引き起こす自己免疫疾患群です。APSはaPLにより血液が凝固傾向になり、動静脈血栓症や流産・不育症などの妊娠合併症の原因となる後天性血栓性素因と定義されています。

APSには単独で発症する原発性と自己免疫疾患である全身性エリテマトーデス(SLE)に合併するものがあり、その比率はほぼ半々と考えられています。aPLの主要対応抗原は、陰性荷電を持つリン脂質と結合した β 2グリコプロテイン I (β 2GPI)とプロトロンビンであることが明らかになっており、診断用検査手法としては抗体自体を測定する免疫学的方法と、ループスアンチコアグラント(LAC)を凝固時間の延長により検出する機能的方法に大別されます。

免疫学的方法によるaPLの抗体系検査には抗カルジオリピン抗体(aCL)や抗 β 2GPI抗体などがありますが、従来保険適用されたものはaCL IgGのみであったため、総合的な評価が困難であるという側面がありました。

本検査は主要なaPLをアイソタイプ別にパネル検査として抗カルジオリピン抗体IgGとIgMおよび抗 β 2GPI抗体IgGとIgMの4項目を同時に測定するもので、2020年7月に保険適用となりました。これにより、国際血栓止血学会が定める分類基準および難病情報センターが定める診断基準に沿った検査が可能となり、これらを一連で測定することはAPSの診断に有用と考えられます。

■検査概要:

検査項目	抗リン脂質抗体(APL)パネル
項目コード	4067
検査方法	CLIA
検体材料・検体量	血清 0.6 mL
採取容器	汎用容器(分離剤入り) 容器番号:01
保存	凍結
基準値	20.0 U/mL 以下
報告様式	抗CL IgG 抗CL IgM 抗 β 2GPI IgG 抗 β 2GPI IgM ※4種の抗リン脂質抗体をご報告いたします。
所要日数	3 ~ 6 日
実施料	696 点* ^{1,2} ([D014]自己抗体検査「27」抗カルジオリピン抗体 232×3回分)
判断料	144 点(免疫学的検査判断料)
備考	*1: 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、抗カルジオリピン抗体および抗 β 2グリコプロテイン I 抗体の測定を行った場合に、抗カルジオリピン抗体の所定点数の3回分を合算した点数を準用して一連の治療につき2回に限り算定できます。 *2: 抗カルジオリピン β 2グリコプロテイン I 複合体抗体、抗カルジオリピン抗体、および本検査のいずれか2つ以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。